

衆院

選の総括を激論

道内政界はど

うなる？

出席者

- A 全国紙記者
- B 地方紙デスク
- C 民放報道部記者
- D フリージャーナリスト

先の衆院選では裏金問題で揺れた自民党に有権者から厳しいジャッジが突きつけられ、道内政界の勢力図も大きく塗り替えられた。明暗を分けた要因は那边にあったのか、そして野党が多数となった今後の北海道はどうなっていくのか――。本誌と付き合いが長いベテラン記者が集まっていただき、新春恒例の座談会企画で、取材の裏話や地元の声などを自由に語ってもらった。なお、政治以外の経済・社会などのテーマについては、次号で紹介する予定だ。

(構成・本誌編集部) ※文中敬称略

1・2区は立憲が順当勝ち

A 私が一応の進行役も務めさせていただき。では、衆院選の振り返りを。自民党は全国的にダメだったけれど、北海道は特にひどかったね。

B 小選挙区は3勝9敗……。弱い時の日ハムの勝敗ペースみたい(笑)

C 1区は順当な結果で、特に話すこともな

いだろう。自民は実績のあった船橋利実が参議になり、知名度が低い新人の加藤貴弘では、立憲の前職・道下大樹相手に、どう転んでも勝ち目はなかった。

D ここは歴史的にも道下の師、横路孝弘がずっと強かったからね。しばらくは道下で盤石だろう。

B 船橋は、堀井学の



▲道下大樹氏

やらかし失職を受け、比例で繰り上がり当選になったけれど、現職参議であることを理由に辞退して正解だったよね。

A 2区も立憲のベテラン松木謙公の順当勝ち。次点だった自民の高橋祐介って、短命議



▲松木謙公氏

員で話題になった人ですよ。

C そう。9月に繰り上がり当選が決まり、11月に解散だから運が悪いよね。いや、名簿上位の2人、参議の船橋と道議に転じた前田一男が辞退してのタナボタ当選だから運がよ

かったのか……。

B ちゃんと調べていないけれど、これほど在職が短かった議員って、あまり記憶にないなあ。

D 参議では、24年4月に繰り上がり当選を辞退した元モーニング娘。の市井紗耶香が「93分」という記録を作っている。今井絵理子にしろ、生稲晃子にしろ、元アイドル議員は、良くも悪くも何かと話題になるね。



▲荒井優氏

3区高木は自民への逆風で涙

A 3区は自民の高木宏寿が逆風の一番の被害者になった。比例でも救われず、同情する中央の仲間も多かったよ。

B あとでて来る和

田義明はしようがない面もあるけれど、本人はクリーンだったのに、味方に足を引っ張られて敗れたという印象だ。裏金問題と関係なく落ちた自民の前職は、前

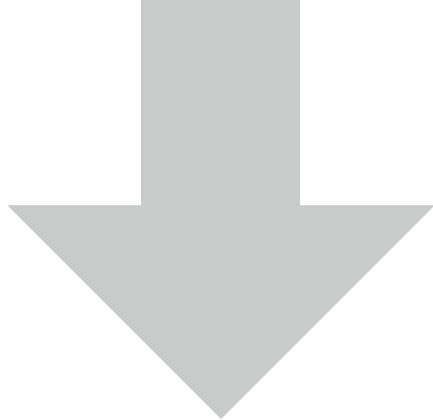


▲高木宏寿氏

出の高橋とオワコンの中川郁子を除けば高木だけ。悔しかっただろうなあ……。

D 立憲の荒井優は、親子2代で高木との戦い。父・聡も高木とは熾烈なライバル関係だった。2012年と2014年は、高木が勝ち、聡が比例復活。2017年は聡が雪辱を果たし、高木はバッジを失った。前回202

33



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

TEL 011-644-0101

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)